

令和6年度 長野県林業大学校学校評価に対する外部評価について

1 学校運営

【質問】

林業大学校は県の運営のため、県内出身者への教育、又は県外から学生を獲得し、県内の林産業に新しく就く人を増やすということが学校の役割である。県内出身者への教育という点で、県内枠として学生半分は県内出身者にしてはどうか。又は、県内への就職ということに力点を置く場合は、就職先がなるべく県内になるよう、インターンシップ先を戦略的に組んでいくなど、長野県内への貢献という点を示していくことはどうか。

【回答】

県外出身者に向け、長野県の林業、木材産業への就職という事で、インターンシップ先も、会社の魅力や動機付けも含め相談している。他県の学校では、県内枠による定員割れが相当数あり、その場合は学校運営が成り立たない状況となる。バランスを考えながら、卒業時の就業先もしっかり指導していきたい。

2 教育活動

【質問】

インターンシップや学校訪問など様々な取組が行われているが、海外渡航を実施することが学生にとって魅力の一つとなり、長野県林業大学校が優先されるものとする。物価を含め、予算的な問題も相当大きいので、今後海外研修を検討してもらいたい。

【回答】

保護者の了承を経て予算を組む必要があるため、タイミング的に、令和8年度のカリキュラム編成に合わせての実施が最短。又は令和10年の本校開校50周年に合わせての再開を検討しており、現地のコーディネーターだった方も含め調整しているところ。

【質問】

信州大学農学部では、教室の断熱改修を学生と地域の工務店が協働で実施することにより、断熱性能を理解する取組を行っている。木材の使い道の一つである断熱性について、教える機会を利用しながら教室の改善を図ることができると思うがどうか。

【回答】

地域大学の取組で地域と連携した工務店との断熱改修については参考とさせていただき、よりよいことであれば取り入れていきたいと考える。

3 評価項目

【意見】

卒業生が林業に対してどういった貢献ができるのかということについて、学生を育成した結果についても評価項目としてはどうか。例えば、林業で活躍した人や林業への参入者がどれだけか、定着率など、林業大学としては大事な事である。評価として適する項目かどうかは判断出来ないが、今後検討してはどうか。